

INNOVATION
WORKSHOP

March 9 - 10 2020

CIRCULAR ECONOMY-

The Future of Business

- ・ 4x
- ・ リサイクル
- ・ SDGs
- ・ シェアリング
- ・ リファビッシュ
- ・ アップサイクル
- ・ 新素材
- ・ サステナビリティ
- ・ プラスチック
- ・ CO₂

デザインのアプローチで実現する、
サーキュラー・エコノミー（循環型経済）

RCA x IIS Tokyo Design Lab

**DESIGN
ACADEMY 2020**

IMAGINE
CREATE
INNOVATE
LEAD

DESIGN ACADEMY は東京大学生産技術研究所と英国ロイヤル・カレッジ・オブ・アートの連携に基づき進められている教育プログラムです。

デザインのアプローチで実現する、サーキュラー・エコノミー（循環型経済）

CIRCULAR ECONOMY - The Future of Business

サーキュラーエコノミーはビジネスを長期にわたって持続させるためのアプローチです。現在の経済は「つくる、使う、捨てる」という線形のしくみから成り立っており、価値は製品やプロダクトを売ることから生み出されます。同時に限りある資源を使い尽くし、廃棄物を増やし、環境を汚染しています。サーキュラーエコノミーは、このしくみを根本的に変える試みであり、従来の限定的なサステナビリティの考え方とは一線を画します。

サーキュラーエコノミーの実現には必然的に経済成長が伴い、そこではデザインが重要な役割を果たします。この場合のデザインの役割はプロダクトデザインなどの従来の位置付けにとどまらず、顧客の新たなニーズを発見する機能を果たします。

原料に分解できるようにデザインされたスマートプロダクト、成分がトラックできるデジタルツール、新たなニーズに応えるビジネスモデルなど、サーキュラーエコノミーには莫大なビジネスインパクトを持つ可能性があります。

資源の保存だけでなく、よりスマートなエネルギー消費、顧客とのより強い関係性の構築などの他、企業間や顧客との関係性、原料とプロダクトの流れなど、経済のダイナミクスを大きく変える可能性があります。

このワークショップでは、従来の線形エコノミーの限界について学ぶとともに、サーキュラーエコノミーへの転換を、価値の創造、顧客との関係性などの観点から探究します。

ワークショップ参加者募集！

詳細・お申し込みはこちらから ▶▶▶



DESIGN ACADEMY は、未来を創造する人材を育成します。

DESIGN ACADEMY は、ロイヤル・カレッジ・オブ・アートが持つデザイン・エンジニアリングの知見と、東京大学生産技術研究所が持つ科学技術の知見に支えられた、「デザイン・イノベーション教育プログラム」を提供します。

ロイヤル・カレッジ・オブ・アート (RCA)

イギリスのロンドンにある王立の美術大学。修士号と博士号を授与する美術系大学院大学としては世界で唯一の学校。QS 世界大学ランキングではアート・デザイン分野で世界 1 位に選ばれています。多方面に著名なアーティストやデザイナーを輩出し続けており、世界最古の美術大学でもあります。

東京大学生産技術研究所 (IIS)

工学のほぼ全ての分野をカバーする東京大学の付置研究所です。5つの研究部門と研究センター群から成り、約160の研究室が活動しています。工学の諸問題の解決・学問と実践の橋渡し・人材育成を使命とし、オリジナリティ溢れる最先端技術を数多く生み出しています。

www.academy.designlab.ac

日程：

2020年3月9日(月)～3月10日(火) *2日間(1回)での開催です。

会場：

THE CORE KITCHEN / SPACE (新虎通り CORE 1 F：東京都港区新橋 4-1-1)

言語：

講義は英語。通訳がつかます。チームセッションは日本語を想定。

参加条件：

どなたでもご参加いただけます。時代に求められる新しいプロダクト・サービス創出、事業創出に関わるデザイナー、リサーチャー、開発者、プランナー、ストラテジスト、マーケッター、営業などのご担当者を想定しています。(デザイン、R&D、事業戦略、経営戦略、マーケティング、営業など)

講師：



Clare Brass

デザインコンサルタンシー **Department 22** ファウンダー、ディレクター。社会的課題をイノベーション創出のきっかけにするアプローチを得意とする。ロイヤル・カレッジ・オブ・アートにおいて、**SustainRCA**を立ち上げ、学際的な組織として、サステナビリティ教育を推進している。また、**Department 22**をベースに、パナソニック、日産自動車、日立などの日系企業を含む様々な企業にサーキュラー・エコノミーのアプローチによる課題解決を提供している。



Thomas Leech

Department 22 共同ファウンダー。**Royal College of Art** と **Brunel University** にてプロダクトデザインを学び、Mulberry、Morphy Richards、Adrok、Onzo など注目度の高い企業の R&D を経験する。サーキュラーエコノミーを開発する次世代を育てる Schmidt Macarthur フェローシップの出身。先端素材に精通し、Burberry Future Material Research Group のアソシエイトリサーチャーとして、持続可能な素材の開発、顧客体験やものづくりの革新に貢献している。

Department 22 <http://www.department22.uk/>

Royal College of Art - SUSTAIN RCA <http://cargocollective.com/sustainrca/About>

